

バイオスティミュラント資材によるシクラメン安定生産技術の検討

1 対象

シクラメン栽培経営体 1戸（稲沢市）

2 背景

管内のシクラメン生産では、高温による生育障害が問題となっており、毎年1割程度の株が廃棄される。一方で、最近では植物のストレス耐性を高めるバイオスティミュラント資材が注目されており、他地域では鉢上げ前後に施用することで根張りを促進し、高品質化に取り組む事例がある。そこで、管内においても根張りや生育の改善効果を検証した。



出荷時期のシクラメンの根張りの様子
(左から対照区、試験区1、2、3)

3 活動の内容

4試験区を設置し（表1）、3号鉢と5号鉢への鉢上げ前後（令和4年4月1日、4月15日、6月9日、6月24日）にバイオスティミュラント資材*を施用した。5号鉢への鉢上げ3、5、10週間後（令和4年7月7日、21日、8月25日）に生育調査を実施した。

表1 試験区の構成

試験区	供試資材（濃度）
試験区1	ライゾー10000倍 (N8ppm) + ボンバルディア1000倍 (N80ppm)
試験区2	ライゾー10000倍 (N8ppm) + ボンバルディア2000倍 (N40ppm)
試験区3	ALAガーデン2000倍 (N40ppm)
対照区	バイオスティミュラント資材なし

*ライゾー（N-P-アミノ酸=8-4-58）、ボンバルディア（N-P-K-アミノ酸=8-0.5-0.5-13）、ALAガーデン（N-P-K=8-5-3）

4 活動の成果

生育調査の結果、試験区1及び2は球根の根本から白くて太い根が発生しており、根乾燥重量も重く、高温期における根張りが改善されたことが分かった（図1、2）。特に試験区1

は、株高、株幅、葉枚数、花蕾数が最も大きくなり、生育と草姿が改善された（表2）。

根張りや生育の改善効果が園主に理解され、次年度以降のバイオスティミュラント資材の施用に意欲的となった。今後はポインセチア等の他品目に対する効果も検証していく。

表2 生育調査結果（8月25日、n=3）

試験区	株高 (cm)	株幅 (cm)	葉枚数 (枚)	花蕾数 (個)
試験区1	10.8	23.5	42.0	14.3
試験区2	9.7	22.8	26.7	12.3
試験区3	10.7	22.0	24.0	12.7
対照区	8.8	21.3	20.7	5.3



図1 試験区ごとの根量の違い（8月25日）

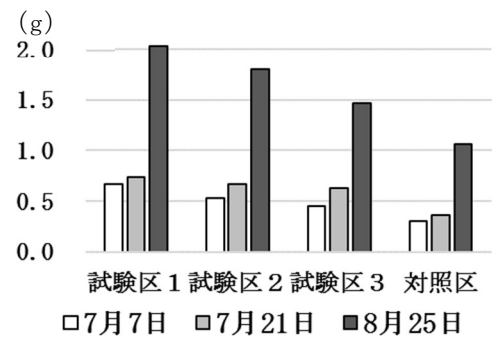


図2 高温期の根乾燥重量の推移
(個体あたり平均)